

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2280 号

Do serum levels of BDNF predict the transition from depression to dementia?

血清 BDNF 濃度はうつ病から認知症への移行を予測するか

済田 貴生 (さいだ たかお)

博士 (医学)

論文内容の要旨

大うつ病性障害 (MDD) 患者では、脳由来神経栄養因子 (BDNF) の血清濃度が低いことが知られている。BDNF は記憶に重要な役割を果たしていると考えられており、アルツハイマー病 (AD) 患者でも血清中の BDNF 濃度が低いことが報告されている。また、うつ病が寛解しても血清 BDNF 濃度が健常者のレベルまで改善しない患者もいることが報告されている。うつ病患者の血清 BDNF 濃度とうつ病から認知症への移行との関係性を調べるために、うつ病患者の血清 BDNF 濃度を測定した。順天堂越谷病院の MDD 患者 204 名を対象とした。そのうち 15 名が認知症に、9 名が軽度認知障害 (MCI) を発症した。対象者の血液検査は入院後の翌朝と寛解直後に行った。患者を低 BDNF 群と非低 BDNF 群に分け、Cox 回帰分析を行った。入院時の血清 BDNF 濃度は MCI や認知症への移行とは関連していなかった。しかし、年齢、性別、教育年数、入院時の Hamilton Depression Rating Scale をコントロールした Cox 回帰分析では、寛解後の血清 BDNF 濃度が低い患者では MCI または認知症の発症率が高いことが示された (HR = 10.941 ; 95%CI、1.03-116.61、p = 0.048)。これらの結果は、うつ病寛解後の血清 BDNF 濃度が認知症・MCI への移行に関係しているが、うつ病相での血清 BDNF 濃度の低下は認知症・MCI への移行には関係していないことが示された。一方で前者は認知症の前駆状態の可能性も考えられる。うつ病寛解後も血清 BDNF 濃度が低い患者はうつ病エピソード期間が長いことなどが報告されていることから、うつ病治療を早期に行い、うつ病相期間を短くすることで認知症への移行を防ぐ可能性があると考えられる。